

広島県保健医療福祉調整本部体制整備事業

災害時の保健・医療・福祉分野の連携強化検討会（第2回）

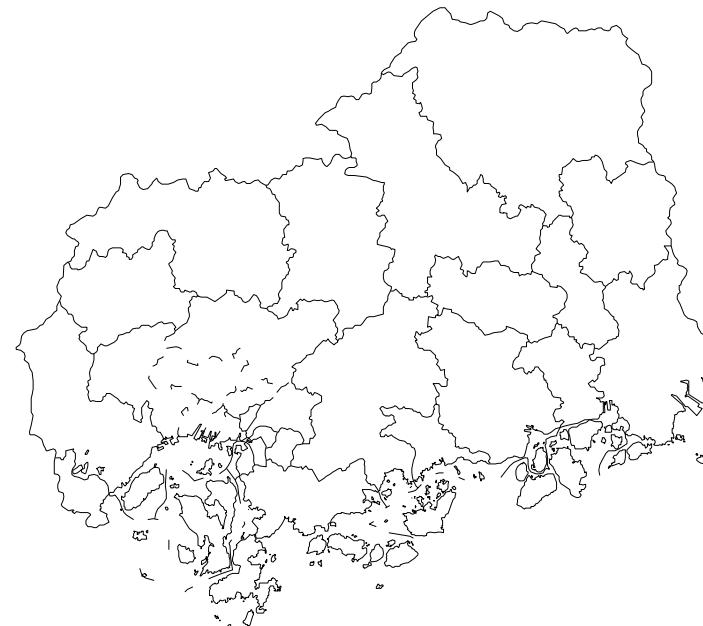
令和8年1月26日（月）

資料1-3-②

（久保達彦構成員提供資料）

広島県保健医療福祉ネットワーク会議

オールひろしま健康危機対応に向けて



目的

大規模災害が発生した場合に、保健医療福祉調整本部を中心とした迅速かつ適切な保健医療福祉活動を実施するためには、平時から、関係者による**顔の見える連携**体制の構築と**共通言語**の確立が重要となる。

このため、関係者による連携強化を目的とした、ネットワーク会議を開催する。



内 容

第一部：顔の見える関係づくり

(1) 講義「保健医療福祉調整本部の役割とネットワーク会議」 広島大学公衆衛生学 教授 久保 達彦	10 分
(2) 各団体の紹介、最近の話題	50 分
休憩	10 分

第二部：共通言語づくり

(1) 保健医療福祉活動の調整に係る演習	70 分
(2) 総合討議	30 分
進行 広島大学公衆衛生学 教授	久保 達彦
指定発言者	
県立広島病院救命救急センター長	楠 真二
広島県感染症・疾病管理センター長	桑原 正雄
社会福祉法人本永福祉会 理事長	本永 史郎
広島県健康福祉局長	北原 加奈子

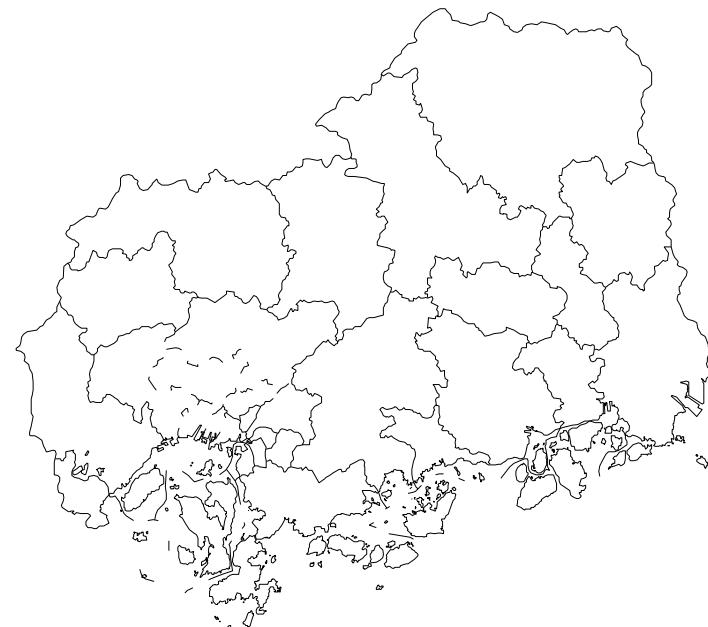
写真撮影

10 分

広島県保健医療福祉調整本部体制整備事業

広島県保健医療福祉ネットワーク会議

第1部 顔の見える関係づくり



災害医療調整本部

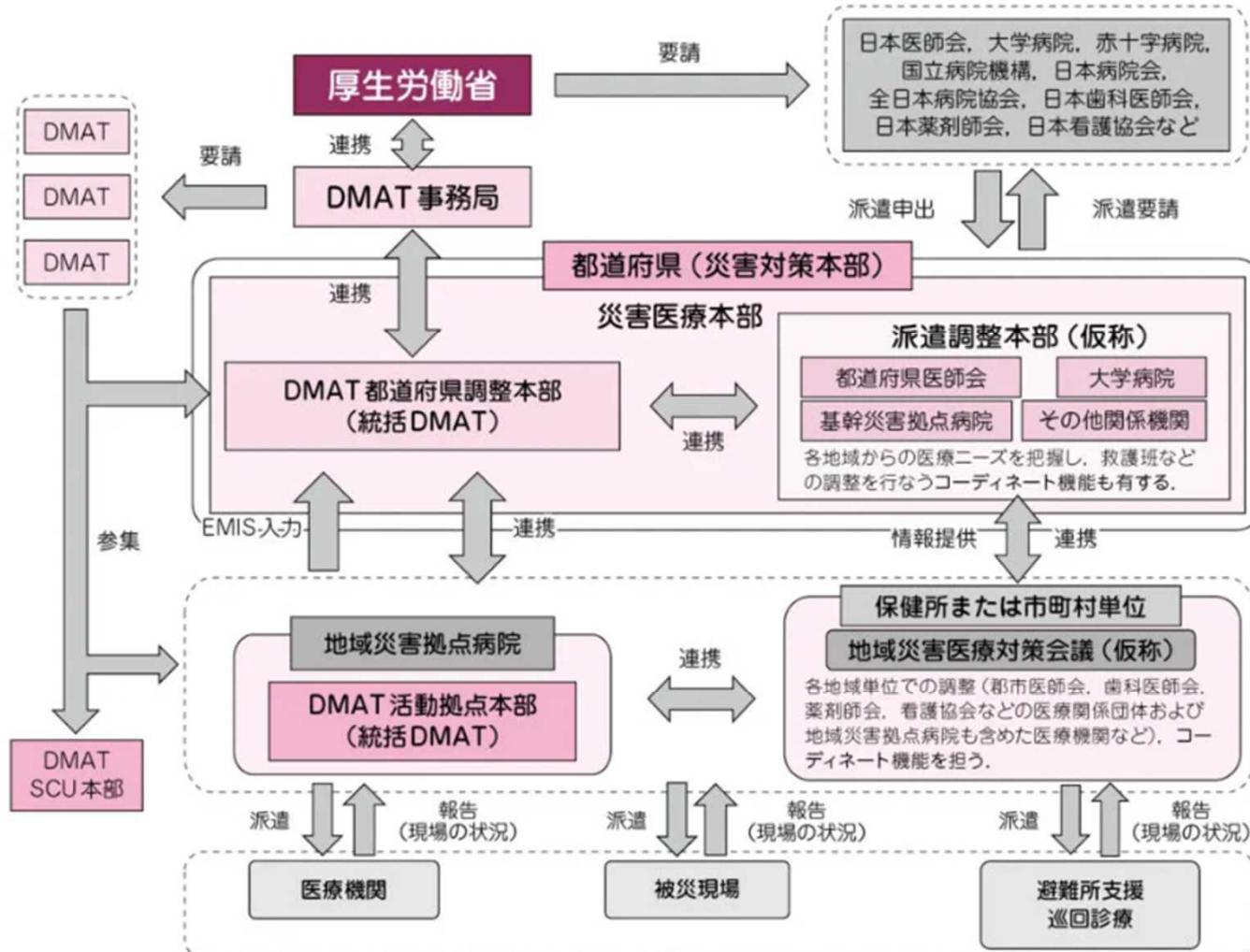


図 10. 災害時の地域の医療提供体制

- ## ● 阪神・淡路大震災の教訓として医療分野の取り組みが先行

保健医療調整本部

大規模災害時の保健医療活動に係る体制の整備について

(平成29年7月5日付け厚生科学課長、医政局長、健康局長、医薬・生活衛生局長、社会・援護局障害保健福祉部長連名通知)

災害時における保健医療ニーズに総合的に対応するため、「保健医療調整本部」の設置を都道府県に通知。

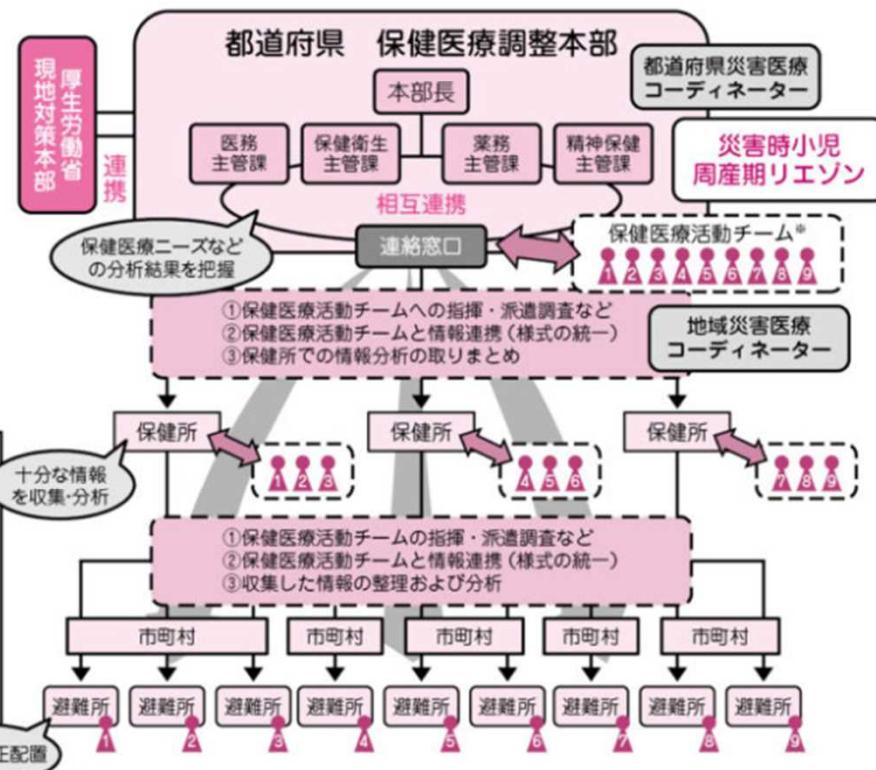
熊本地震における課題と原因

<課題>

- 被災都道府県、保健所、保健医療活動チームの間で被害状況・保健医療ニーズなど、保健医療活動チームの活動状況などについて情報連携が行われず、保健医療活動が効率的に行われない場合があった。

<課題>

- 被災都道府県および保健所における、保健医療活動チームの指揮・情報連絡系統が不明確で、保健医療活動の総合調整を十分に行うことができなかった。



今後の大規模災害時の体制モデル

<今後の対応>

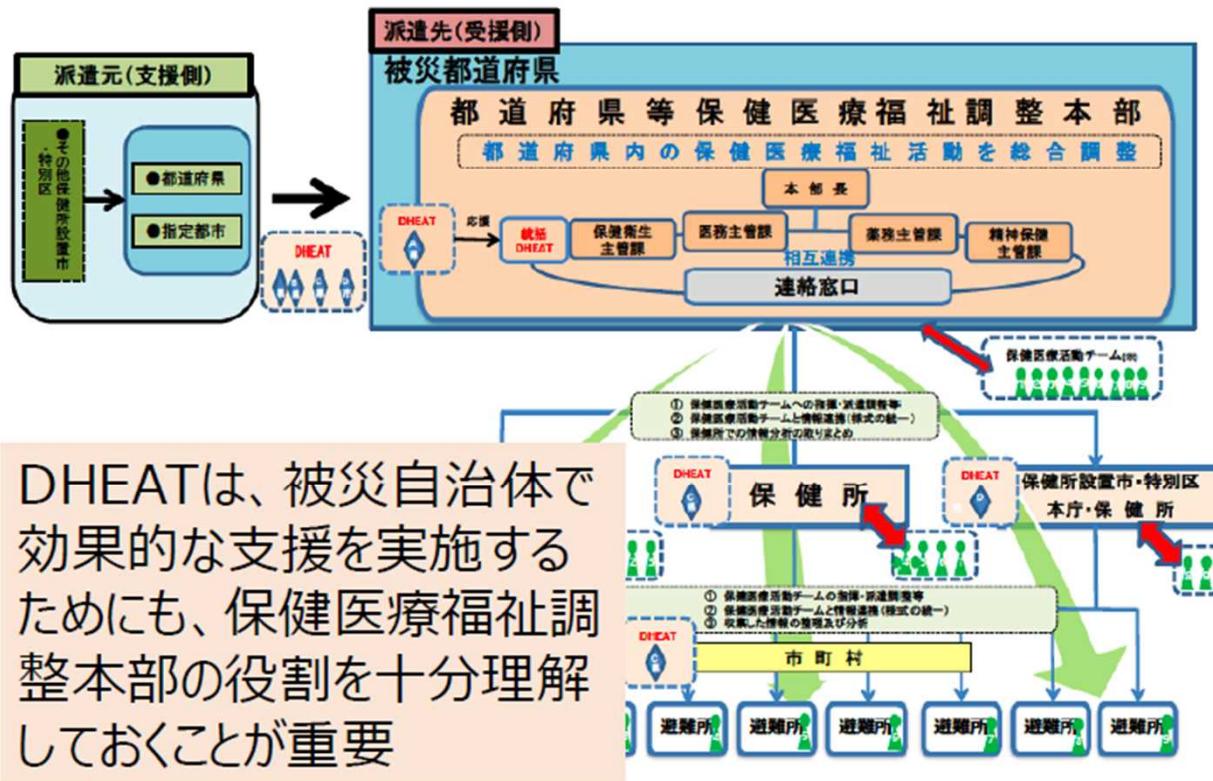
- 被災都道府県に設置された保健医療調整本部において、保健所と連携し、
 - ①保健医療活動チームに対する指揮または連絡および派遣調整
 - ②保健医療活動チームと情報連携（様式の統一）
 - ③収集した保健医療活動に係る情報の整理および分析を一元的に実施し、**保健医療活動を総合調整する体制**を整備する。

(※) 凡例 1 保健医療活動チーム (DMAT, JMAT, 日本赤十字社の救護班, 国立病院機構の医療班, 歯科医師チーム, 薬剤師チーム, 看護師チーム, 保健師チーム, 管理栄養士チーム, DPATなど)

- 熊本地震の教訓として関係各課、保健と医療が縦割りを排して融合する調整本部体制へ

保健医療福祉調整本部

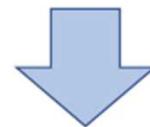
保健医療福祉調整本部の役割・意義



DHEAT研修資料より

保健医療福祉活動の総合調整

- ・ 保健医療活動チームの指揮・連絡・派遣調整
- ・ 関係機関との連絡・情報連携(連絡窓口)
- ・ 情報の整理・分析
- ・ 必要な支援の要請



効果的、効率的かつ安全な、災害時の保健医療福祉活動

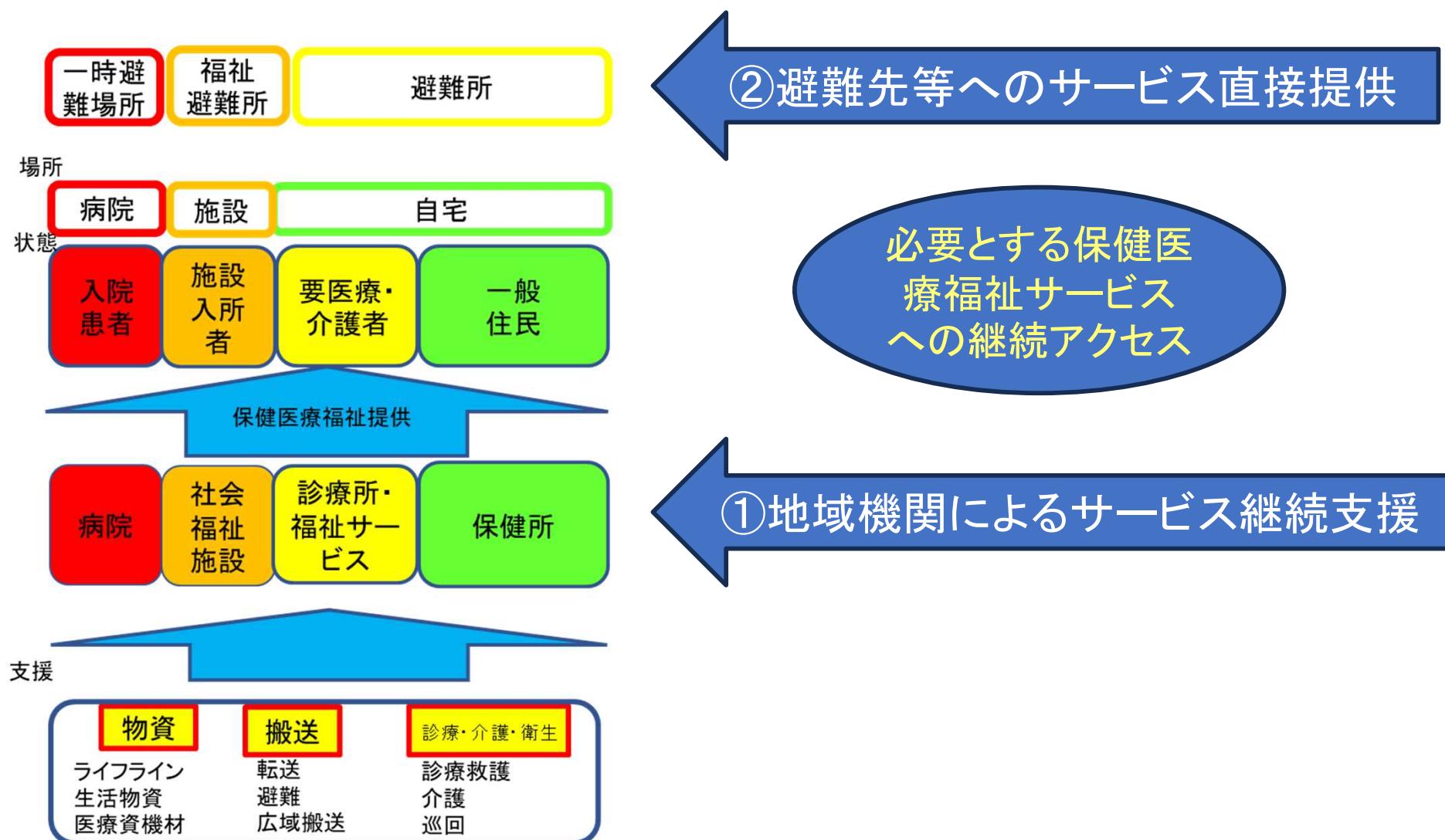
- 地域高齢化を踏まえ当然の流れとして、保健と医療と福祉が一体化した総合調整体制へ

2024 石川能登半島地震（石川県庁）



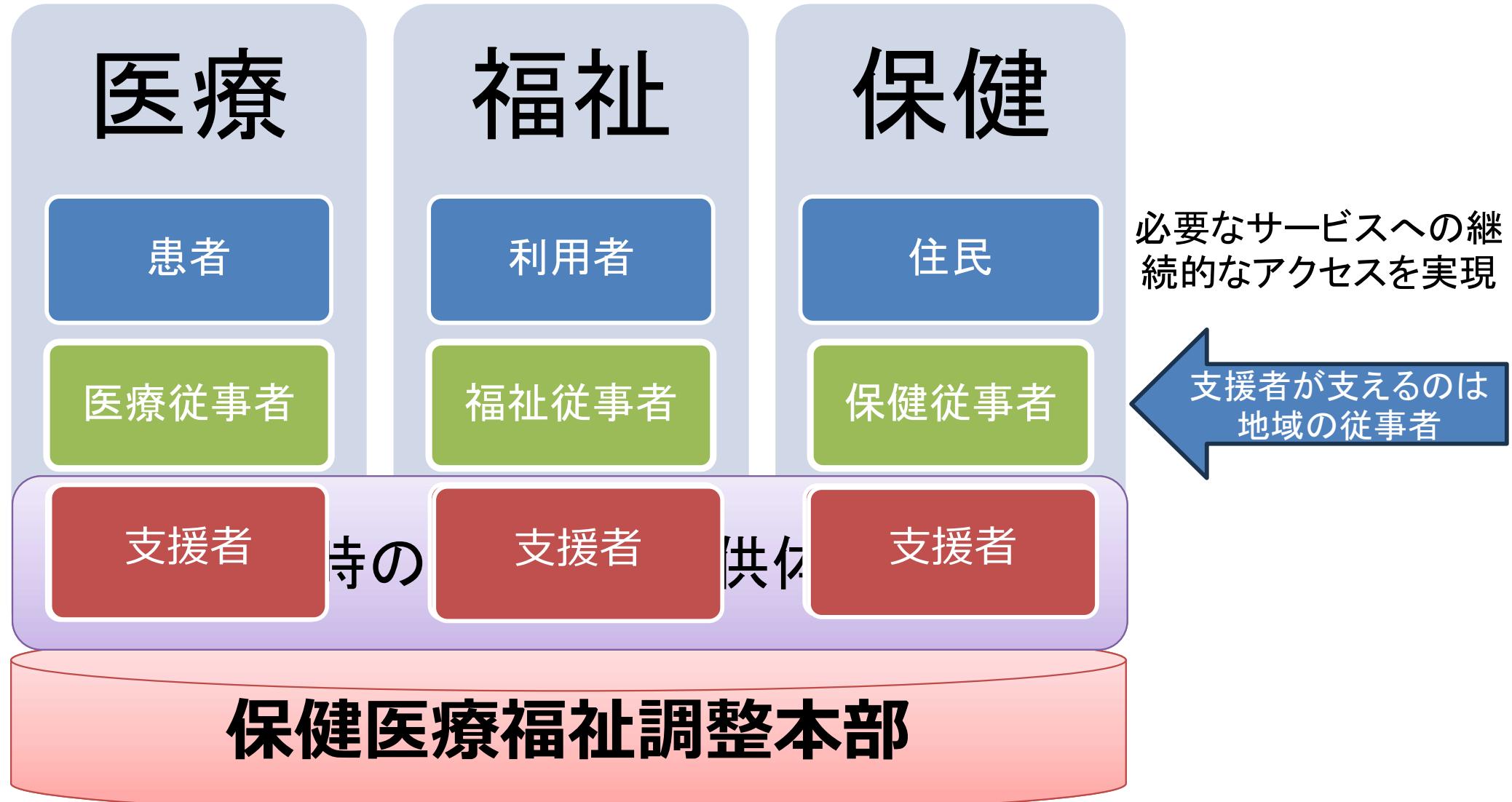
- 保健・医療・福祉支援関係者が行政と一体化して総合調整
- 保健医療福祉支援ニーズのとりまとめ⇒現状分析により活動方針を設定⇒支援資源配分

総合調整の目的と手段



- 調整の目的は、住民が必要とする保健医療福祉サービスへの継続的なアクセスの確保
- 戦略は、①地域機関サービス提供支援支援、②避難先へのサービス直接提供の2つ

サービス提供体制を支える人の観点



- 保健医療福祉調整本部はサービス提供体制を評価し、必要に応じて支援者を投入
- 支援者は、地域従事者を支援することで、サービス提供体制の維持に貢献

DMAT活動の優先順位

防ぎえる災害による
死亡の低減

防ぎえる災害による
健康被害の低減

災害拠点病院

一般病院

救助現場
介護保険施設

孤立集落
避難所



- 活動コンセプトは支援団体によって異なる
- 活動の特性やキャパシティの相互理解が不可欠

オールひろしま健康危機対応に向けて

広島県保健医療福祉ネットワーク会議

目的： ◎関係団体のキャパシティと連携窓口の平時からの共有（顔の見える関係）
◎関係団体間での研修訓練資料の共有に向けた議論（共通言語）

【支援組織15】 ①広島県災害医療コーディネーター、① 災害派遣医療チーム(DMAT)、② 災害派遣精神医療チーム(DPAT)、③ 日本赤十字社広島県支部(日赤救護班)、④ 一般社団法人広島県医師会、⑤ 一般社団法人広島県歯科医師会(JDAT)、⑥ 日本災害リハビリテーション支援協会(広島JRAT)、⑦ 災害派遣福祉チーム(広島DWAT)、⑧ 公益社団法人広島県薬剤師会、⑨ ピースウィンズ・ジャパン、⑩ 公益社団法人広島県看護協会、⑪ J-SPEED解析支援チーム、⑫ 災害時危機管理支援チーム、⑬ 広島県災害時公衆衛生チーム、⑭ 広島県災害時小児周産期リエゾン

【行政15】 広島市健康福祉局保健部、広島市健康福祉局保健部健康推進課、広島市健康福祉局保健部医療政策課、広島市健康福祉局健康福祉企画課、広島県健康福祉局、感染症・疾病管理センター、広島県薬務課、広島県医療介護政策課、広島県医療介護基盤課、広島県健康づくり推進課、広島県地域共生社会推進課、広島県健康危機管理課、広島県西部厚生環境事務所・保健所、広島県東部厚生環境事務所・保健所福山支所、広島県北部厚生環境事務所・保健所



お話していただくこと

- ・団体名/チーム名
- ・主な活動内容（災害時の強みや課題など）
- ・当ネットワーク会議への期待



目安2~3分

広島県保健医療福祉調整本部体制整備事業

広島県保健医療福祉ネットワーク会議

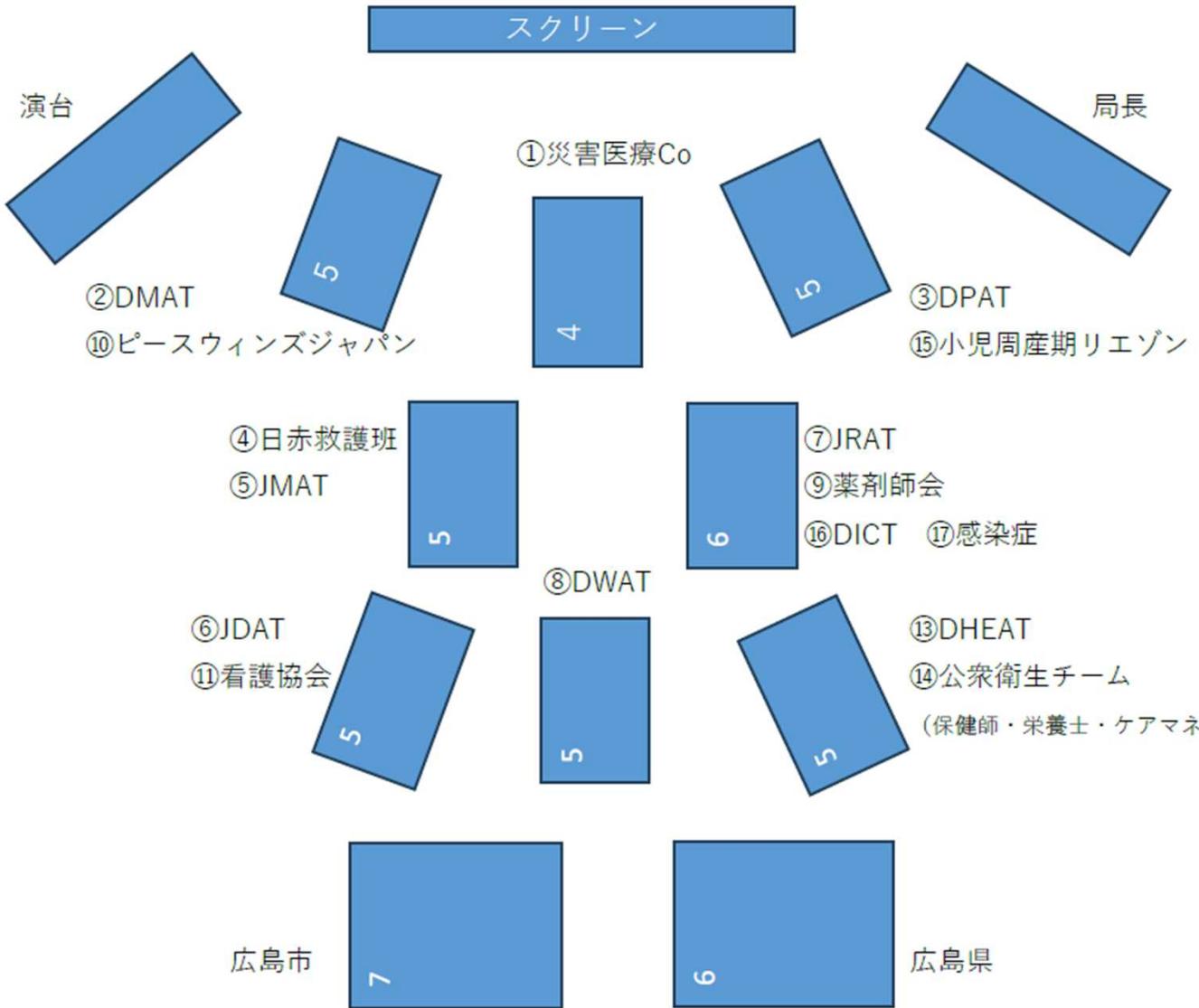
第2部 共通言語づくり



 広島県災害医療 コーディネーター <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 DMAT <small>災害派遣医療チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 DPAT <small>災害派遣精神医療チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 日本赤十字社 <small>日本赤十字社広島県支部</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 JMAT <small>日本医師会災害医療チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>
 JDAT <small>日本災害歯科支援チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 JRAT <small>広島災害リハビリテーション推進協議会</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 Hiroshima Prefectural Health, Medical and Welfare Network 2025	 DWAT <small>広島県災害派遣福祉チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 広島県薬剤師会 <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>
 災害支援ナース <small>広島県看護協会</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 peace winds <small>ピースウインズ・ジャパン</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 J-SPEED 解析支援チーム	 DHEAT <small>災害時健康危機管理支援チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 災害時公衆衛生チーム <small>広島県</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>
 広島県感染症医療支援チーム <small>広島県</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 広島県災害時 小児周産期リエゾン <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 DICT <small>災害時感染制御支援チーム</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 広島県介護支援専門員協会 <small>Hirosima Care Manager Association</small> <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>	 広島県栄養士会 <small>Hirosima Prefectural Health, Medical and Welfare Network since 2024</small>

今年度の参加団体

広島県災害医療コーディネーター	J-SPEED解析支援チーム
災害派遣医療チーム (DMAT)	災害時危機管理支援チーム (広島県DHEAT)
災害派遣精神医療チーム (DPAT)	災害時危機管理支援チーム (広島市DHEAT)
日本赤十字社広島県支部 (日赤救護班)	広島県災害時公衆衛生チーム
一般社団法人広島県医師会 (広島JMAT)	広島県災害時小児周産期リエゾン
一般社団法人広島県歯科医師会 (広島JDAT)	災害時感染制御支援チーム (DICT)
広島災害リハビリテーション推進協議会 (広島JRAT)	広島県感染症医療支援チーム
広島県災害派遣福祉チーム (広島DWAT)	広島県介護支援専門員協会
公益社団法人広島県薬剤師会	広島県栄養士会
公益社団法人広島県看護協会	広島市・呉市・福山市
特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン	広島県



演習参加支援機関と県調整本部担当班

災害医療コーディネーター

DMATコーディネーションチーム

DMAT

日赤救護班

災害支援ナース

DPAT

JMAT

小児周産期リエゾン

JRAT

JDAT

J-SPEED解析支援チーム

PWJ

薬剤師会

広島県感染症医療支援チーム

DHEAT

DICT

保健師チーム

栄養士会

DWAT

介護支援専門員協会

広島県健康福祉局長

(広島県保健医療福祉調整本部長)

県担当者

(健康福祉班)

県担当者

(公衆衛生班)

県担当者

(医療対策班・DMAT班)

県担当者

(社会福祉班)

県担当者

(生活衛生班)

県担当者

(防疫班)

県担当者

(医療資材班)

- どのような組み合わせ・協働体制が最適でしょうか？

各支援チーム等の県所管課

所管課	災害支援に関する職種	各支援チーム等
健康危機管理課	保健師、臨床検査技師	災害医療コーディネーター、DMAT、DICT、感染症医療支援チーム、DPAT、DHEAT、J-SPEED解析支援チーム
疾病対策課	精神保健福祉士	
食品生活衛生課	獣医師	
薬務課	薬剤師	薬剤師会、災害薬事コーディネーター
医療介護基盤課	社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、看護師、助産師、柔道整復士	JMAT、日赤救護班、JRAT、災害支援ナース、その他の医療チーム
健康づくり推進課	歯科、歯科衛生士、栄養士、理学療法士、作業療法士	JDAT
障害者支援課	相談支援員	
地域共生社会推進課		DWAT
医療介護政策課		小児周産期リエゾン

平時の体制

各支援チームへの派遣要請と調整を行う県担当班（課）

公衆衛生班	健康危機管理課 こども家庭課 疾病対策課 薬務課 医療介護基盤課 健康づくり推進課 地域共生社会推進課 障害者支援課	DHEAT 保健師チーム DPAT 栄養士会
医療対策班 ・ DMAT班	疾病対策課 医療介護政策課 医療介護基盤課 健康づくり推進課 健康危機管理課	DMAT DMATコーディネーションチーム 災害支援ナース 小児周産期リエゾン 日赤救護班 JMAT JRAT JDAT PWJ J-SPEED解析支援チーム
社会福祉班	子供未来応援課 安心保育推進課 こども家庭課 医療介護基盤課 健康づくり推進課 地域共生社会推進課 社会援護課 障害者支援課	DWAT 介護支援 専門員協会
防疫班	健康危機管理課 (CDC)	DICT 広島県感染症医療支援チーム
医療資材班	薬務課	薬剤師会 有事の体制

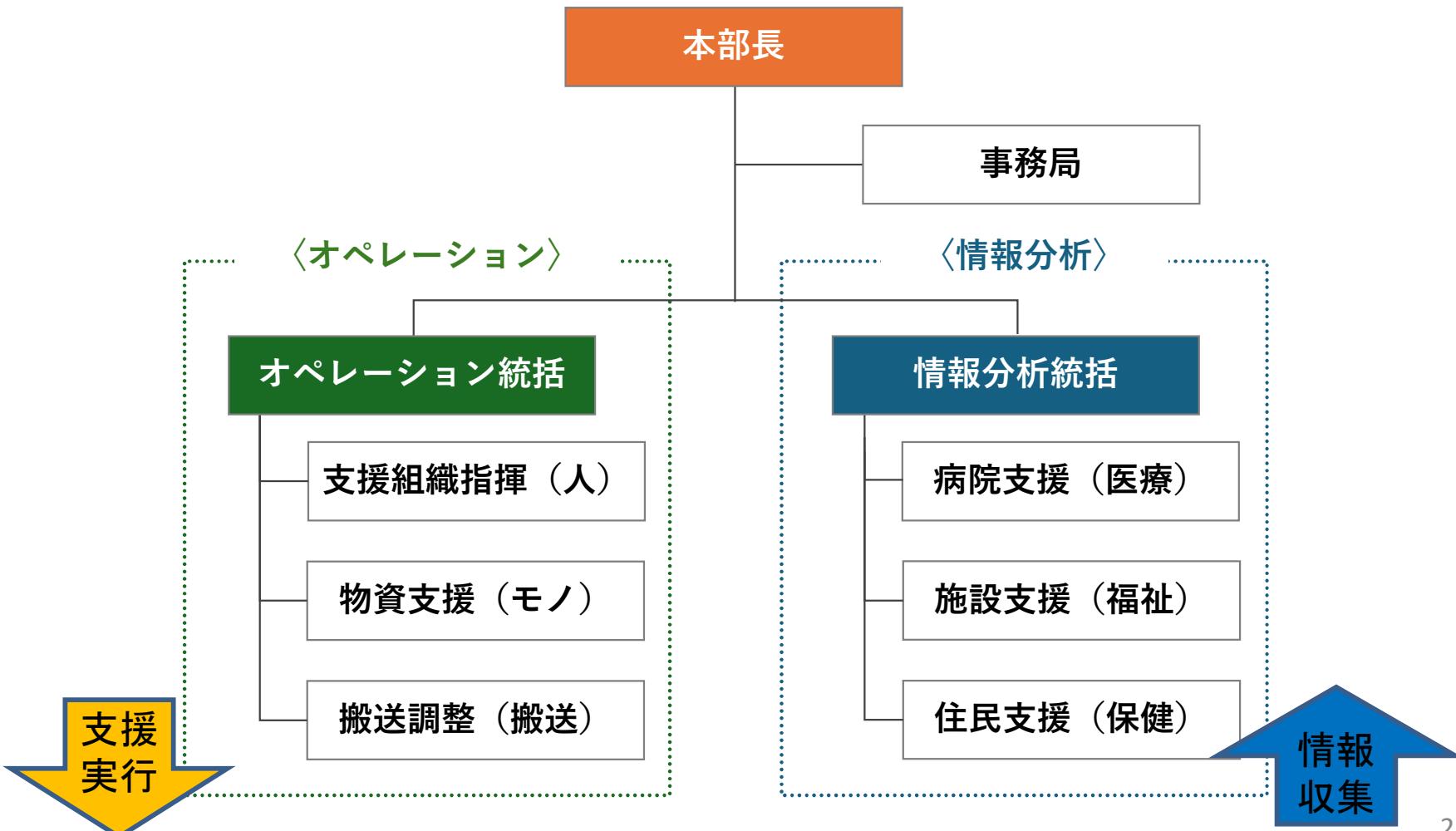
厚生労働行政推進調査事業費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「健康危機管理センターと他分野連携体制の推進のための研究」(課題番号:22LA2004)



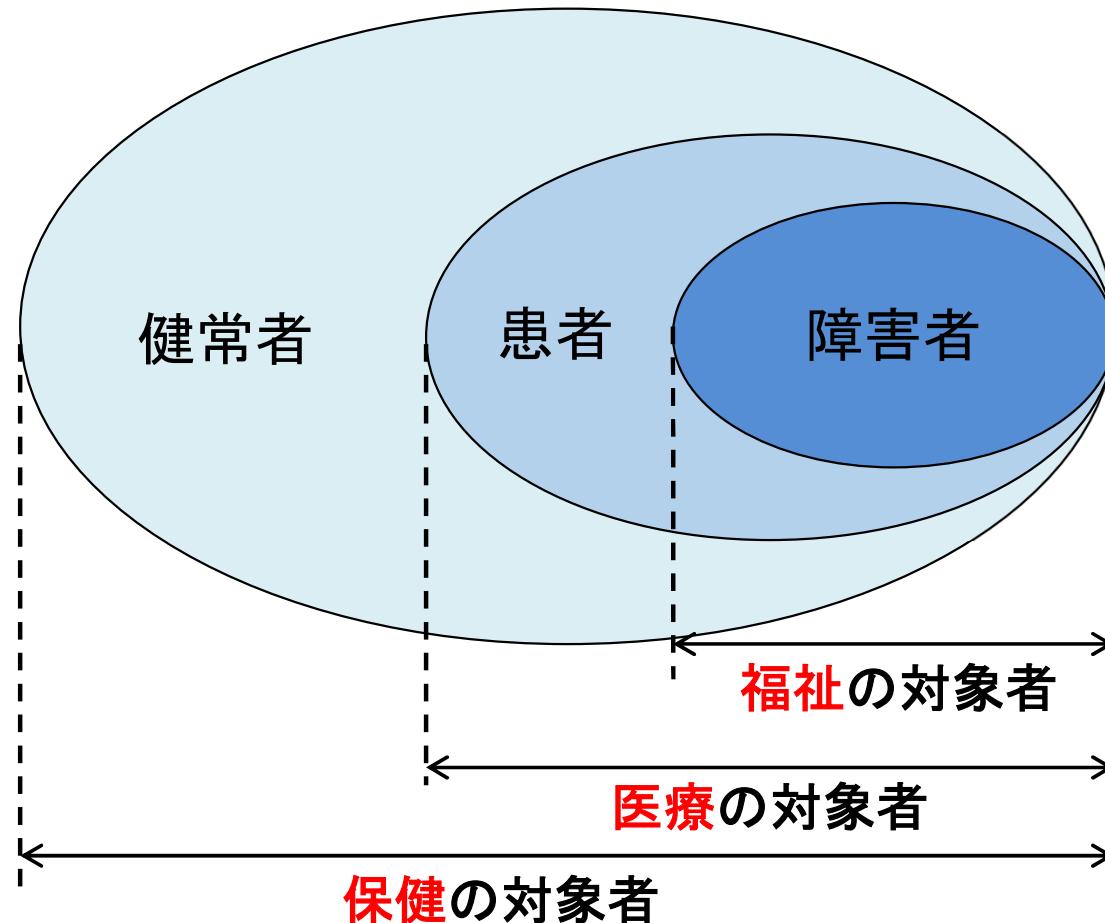
最新の知見に基づく健康危機対策本部運営の手引き

【SOP】 本部体制図

- 本部運営においては、まず本部体制図を作成する
- 従前からの保健医療福祉サービス提供主体を支援するという観点を踏まえる
- 情報収集(上り)と支援活動の実施(下り)を分けて体制を組む
- 支援の内容はヒト・モノ・搬送(負荷の軽減)に分類可能



保健・医療・福祉の関係性



- 保健は全住民が対象、医療は患者が対象、福祉は障がい者が対象
- 保健ニーズ情報収集には必然的に医療・福祉ニーズ情報も含まれてくることに留意

保健医療福祉活動の調整に係る演習 (Step1)

それぞれの機能班へ関与すべきか検討し、お互いの関係性を確認する

各テーブルの体制図を見ながら、県庁へ派遣させた自分の団体を、どの班へ関与させるのか？検討して結果をフォームへご入力ください。

(関与とは、常駐・席あり・連絡がつく体制)

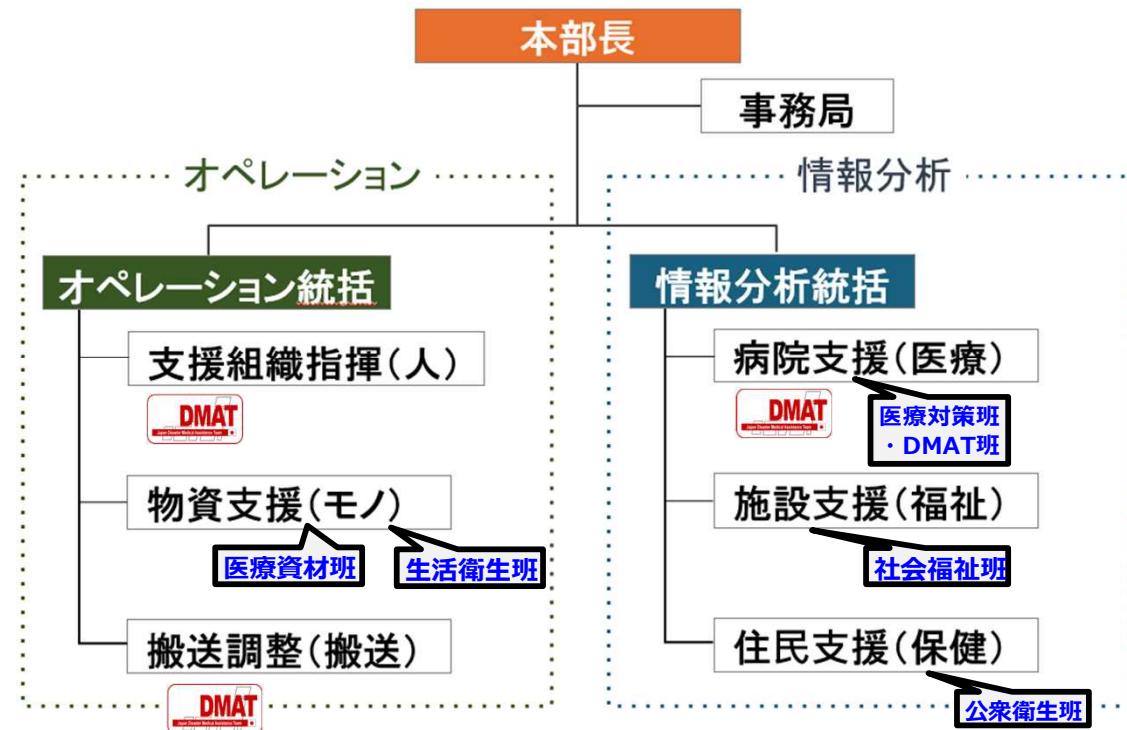
その検討をもとに、県保健医療福祉調整本部へ何人派遣すべきか、通信困難な場合の連絡手段や方法も検討してください。

支援団体だけでなく、行政の方も

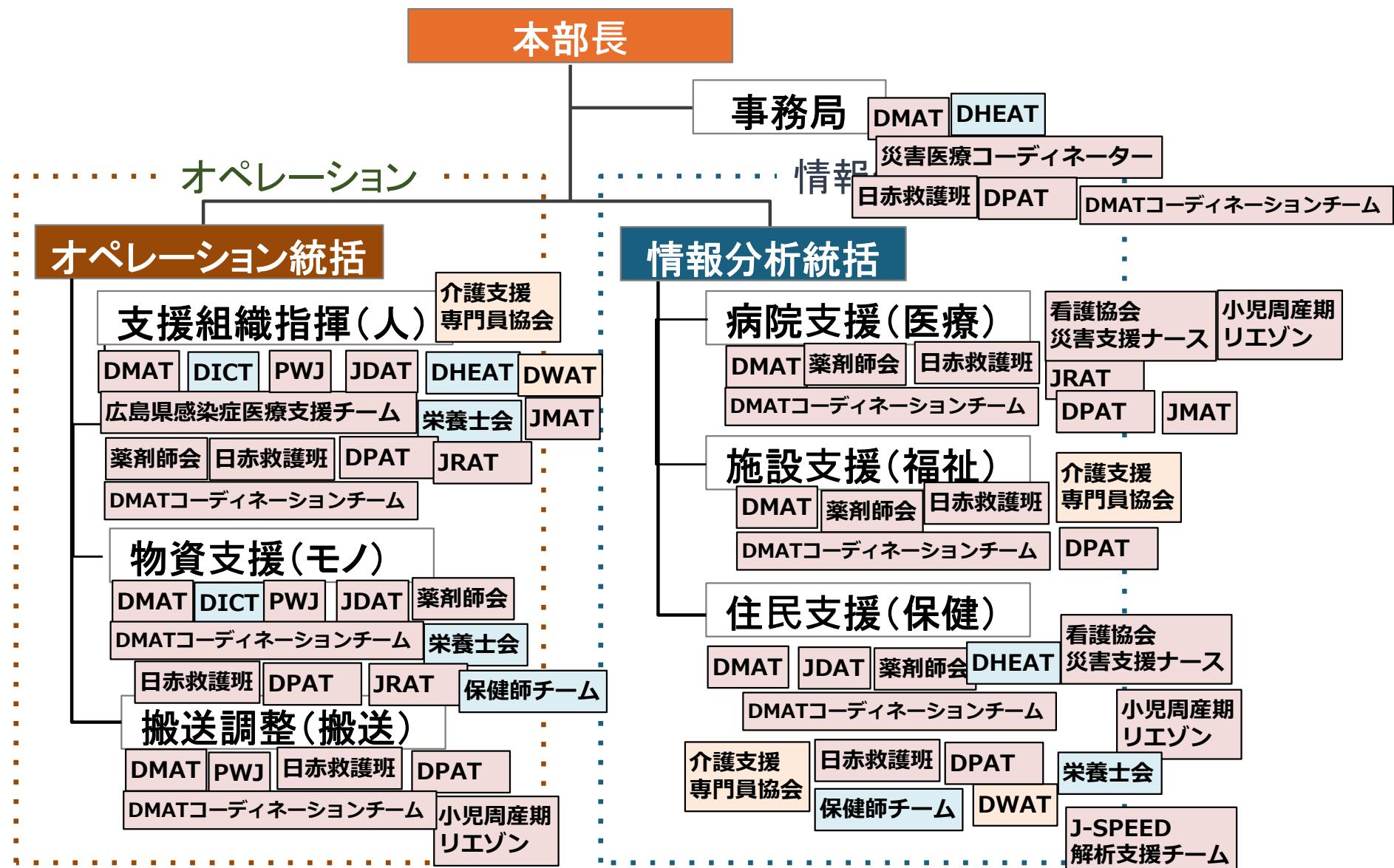
考えてみてください。

<https://forms.office.com/r/eH5u1rMB2j>

想定する時期は
全支援期間中
(超急性期～慢性期)です。

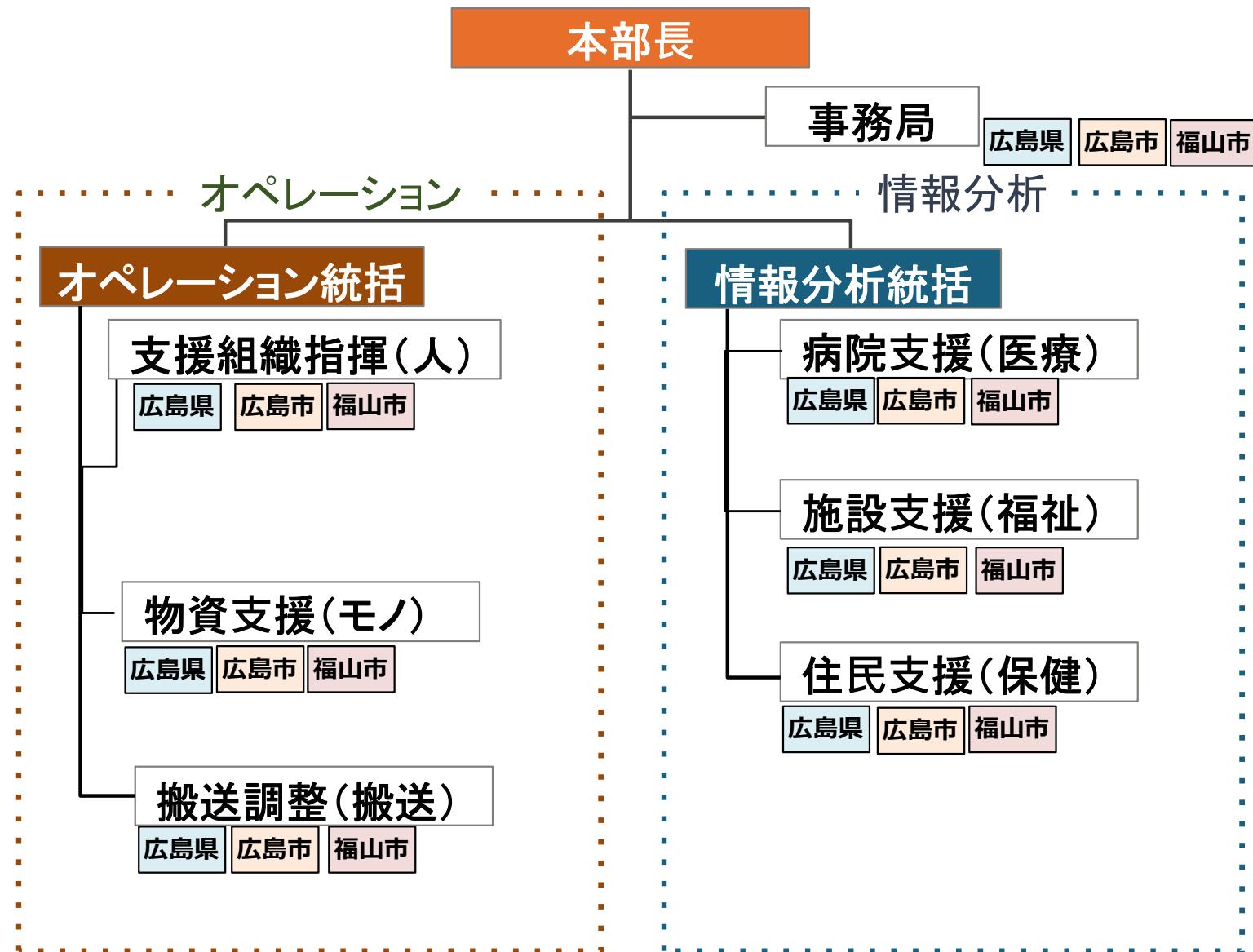


広島県での演習入力結果(支援者)

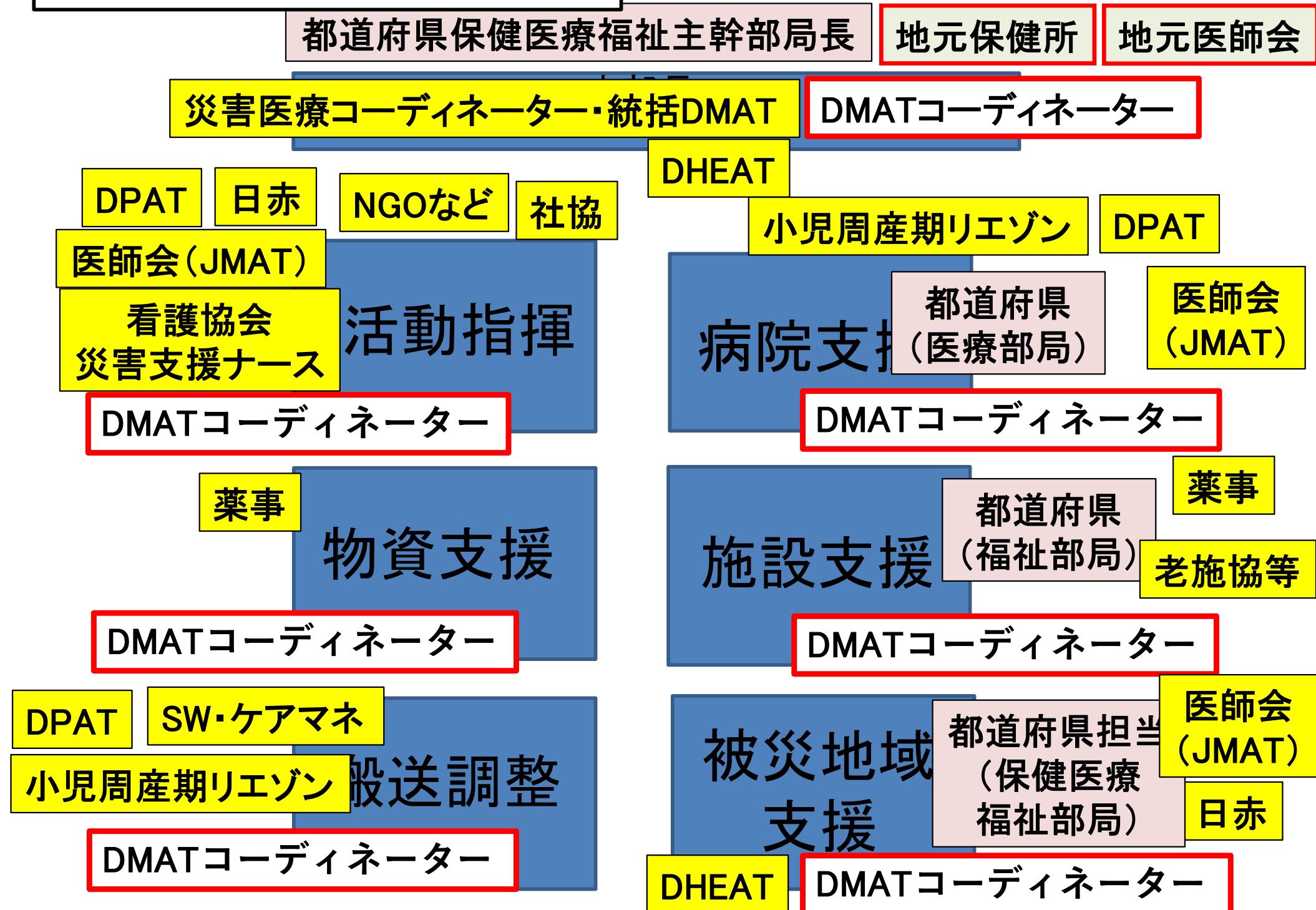


広島県保健医療福祉ネットワーク会議における
保健医療福祉調整本部の6つの機能班

広島県での演習入力結(行政)



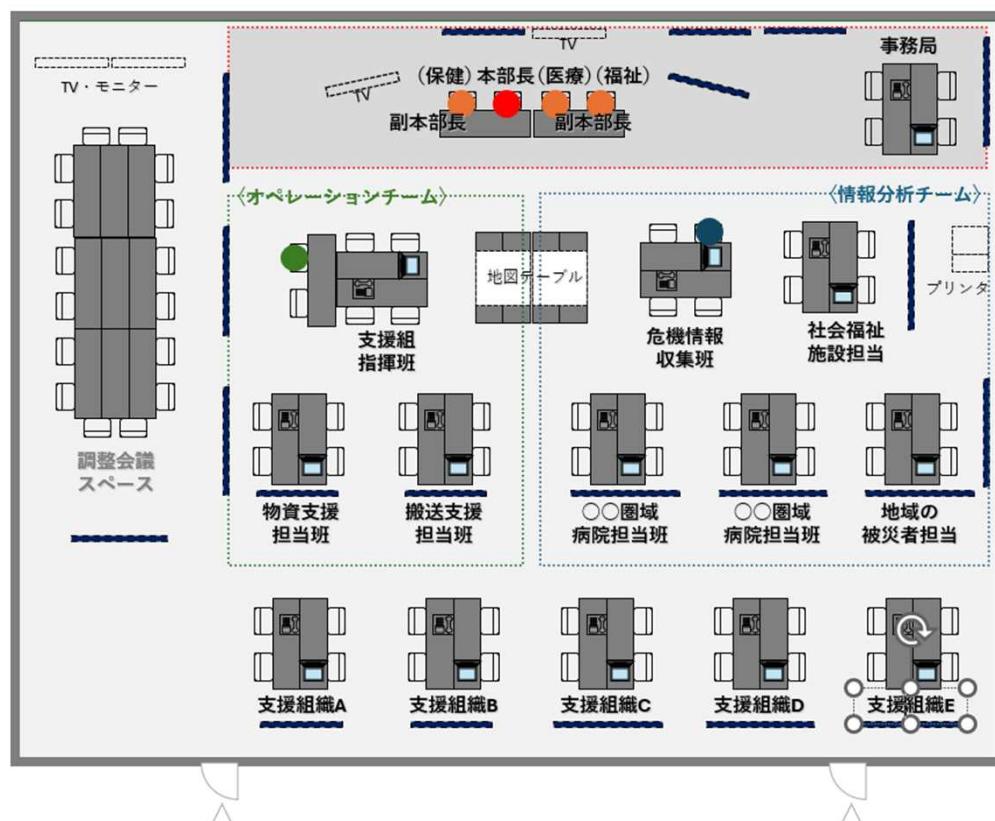
広島県保健医療福祉ネットワーク会議における
保健医療福祉調整本部の6つの機能班





【SOP】調整本部の基本配置(レイアウト)

- 体制図に基づきテーブルを配置する。



配置にあたっては、具体的には次の点に考慮する。

- ・全体を見渡せる位置に本部長を配置し、本部長の近くに調整担当や広報担当を配置する。
- ・活動するうえで密接な関係がある組織を物理的に近接させて配置する。
- ・共有部分として、調整本部全体の進捗状況の表示、プリンター等の設置を行う。
- ・地図テーブルを設置し、対応状況を把握しやすくなる。
- ・「執務」エリアの面積は、機材の設置面積等も加味し、職員1人あたり4～5m²として算定する。
- ・「調整会議」エリアの面積は、モニター等の映像関連や通路部分等を含め、職員1人あたり5～6m²の規模を確保する。
- ・配置は体制図と合わせて定期的に見直す。

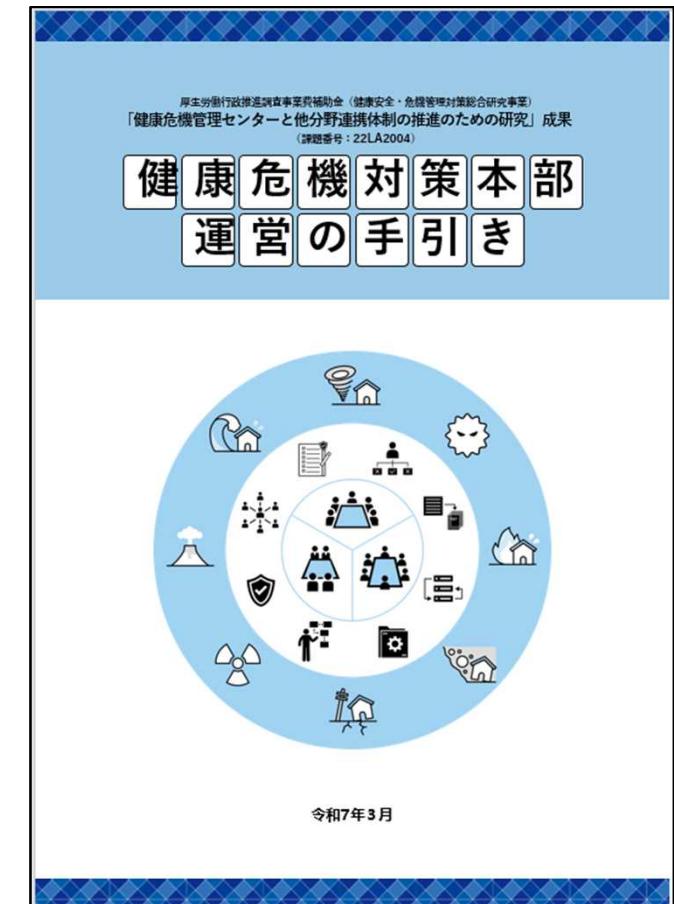
保健医療福祉活動の調整に係る演習 (Step2)

保健医療福祉調整本部における機能班の役割を認識する

熊本地震を契機に、本部における保健医療福祉調整が不可欠と言われていますが、平時の訓練でさえも本部内で各支援団体ごとの個別グループが作られ、情報共有が出来ていませんでした。

能登半島地震の石川県庁では、本部の中心に「機能班」ごとのレイアウトが作られ、その外に団体ごとのグループが作られました。我々は本部内において、機能や目的ごとのグループにて、共同して活動するという課題に直面しています。

保健医療福祉調整本部における機能班とは、どんな機能を持っているのでしょうか。事例に学びましょう。



今からの各機能班の説明は、あくまでも経験や紹介事例です。

本部長

事務局

オペレーション

オペレーション統括

支援組織指揮(人)

支援組織指揮(活動指揮)
興生総合病院 小倉康弘

物資支援(モノ)

物資支援
健康危機管理課 小山智士

搬送調整(搬送)

搬送調整
県立広島病院 小山和宏

情報分析

情報分析統括

病院支援(医療)

病院支援の解説
県立広島病院 桂藤和司

施設支援(福祉)

施設支援の解説
広島大学 田治明宏

住民支援(保健)

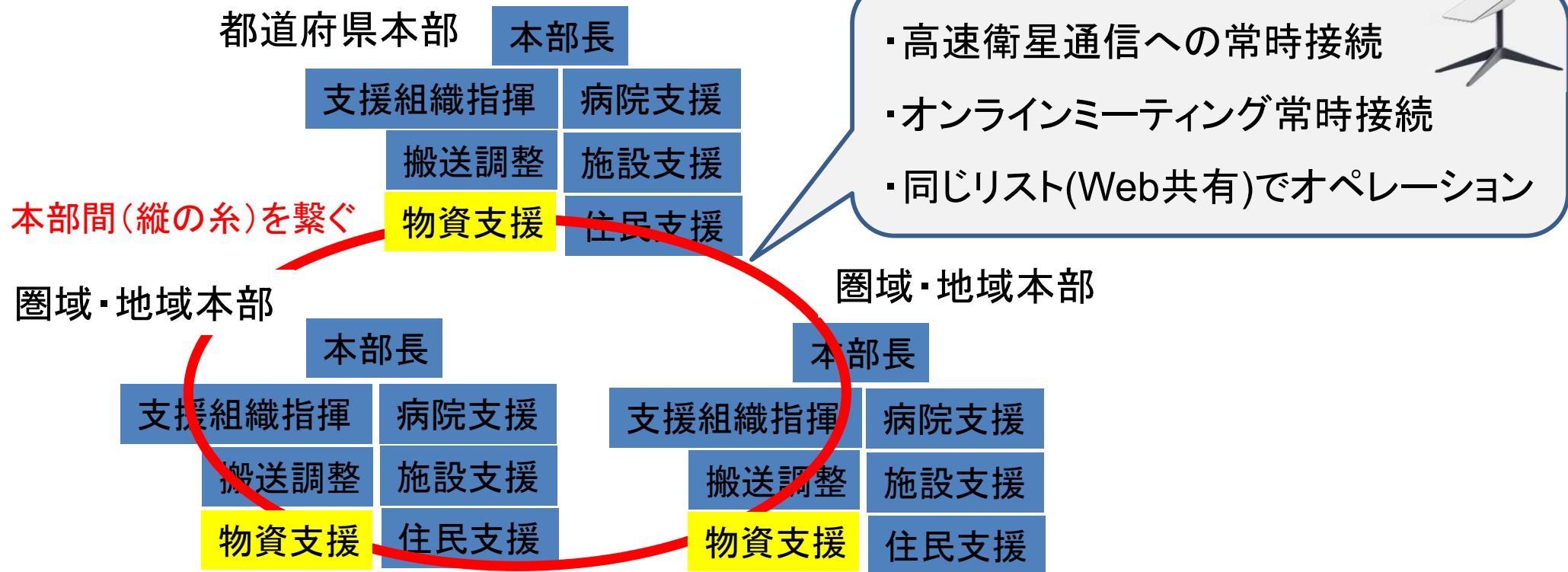
住民支援(被災地域支援)
広島市 城間紀之

ポイント

機能別に関係者が集まります

地域本部も機能班を揃える必要
があります

各レベルの本部との連携・機能班単位の情報共有



現状分析と活動方針の共有

活動方針を合わせる必要は無いが、「見ているもの」が違っていては、連携など出来ない

- ・ 活動方針の共有
 - 現状分析や活動方針・クロノロの共有: EMIS
- ・ 重要案件の調整
 - 責任者同士の打ち合わせが必要
- ・ **機能班別ミーティングの実施**
- ・ 本部間オンライン会議システムの活用
- ・ 適時、適宜の前線視察

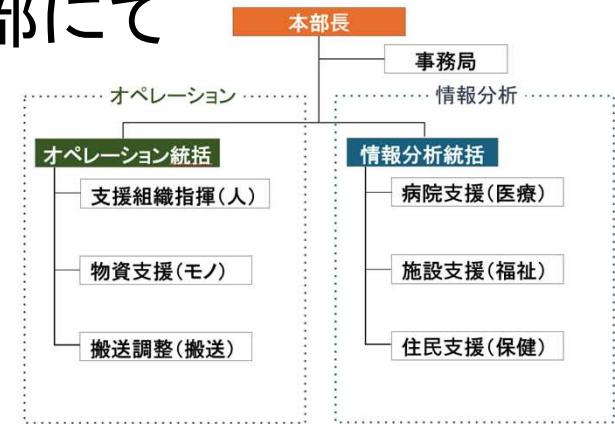
保健医療福祉連携のポイント

1. 各支援団体の支援対象や支援範囲を共有する

2. 本部内構成(機能班)を県や各市、各圏域本部にて
可能な範囲で統一する

3. 各機能班へ対象とする団体が集まり、
顔の見える関係と共通言語を構築して協働

4. 毎日のスケジュールを合わせる(オペレーションテンポ)





【SOP】オペレーションテンポ(会議周期)

● 本部間の情報連携を踏まえたタイムスケジュール

圏域・地域の本部

時間	取組内容
8:00	・ 本部要員交代
8:30	・ ミーティング(活動方針の確認)
9:00	・ 情報データから情報資料を作成 (Information ⇒ Intelligence)
10:00	・ 地域保健医療福祉調整本部会議 11:00の会議用資料提出
11:00	・ 保健医療福祉調整本部会議(県) ※各地域からはオンライン参加
13:00	
14:00	・ 市町での災害対策本部会議 (政治的リーダーシップへの報告)
15:00	・ 情報データから情報資料を作成
16:00	・ ミーティング(地域の現状分析と活動方針の立案) 17:00の会議用資料提出
17:00	・ 県との連絡会議
20:00	・ 本部要員交代(夜間に活動方針の精緻化と資料作成)

都道府県の本部

時間	取組内容
8:00	・ 本部要員交代
8:30	・ ミーティング(活動方針の確認)
9:00	・ 情報データから情報資料を作成 (Information ⇒ Intelligence)
10:00	
11:00	・ 保健医療福祉調整本部会議(県)
13:00	・ 国との連絡会議
14:00	・ 県での災害対策本部会議 (政治的リーダーシップへの報告)
15:00	・ 知事や局長の記者会見
16:00	・ 情報データから情報資料を作成
17:00	・ 地域との連絡会議(県での現状分析と活動方針の立案)
20:00	・ 本部要員交代(夜間に活動方針の精緻化と資料作成)

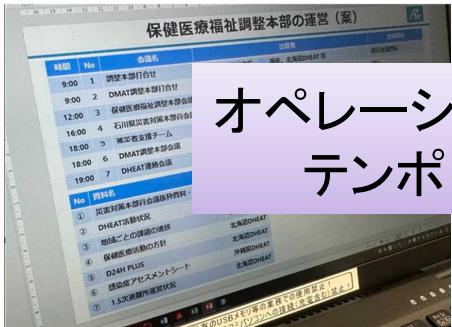
②は当日の活動を振り返り、明日からの活動方針を資料化する会議

①は活動方針の資料を保健医療福祉で統合のうえ、活動を最適化する会議

R6能登半島地震地震における実践

オペレーションテンポ(会議周期)

- 各本部は、上位下位の関係本部との情報連携を組み込んだタイムスケジュールを関係会議サイクルとして設定する。

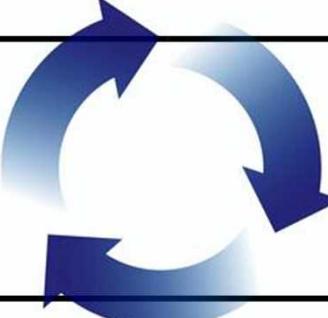


21

DMAT調整本部会議 18時～



22



知事メディア対応 (放映18時～)



26

県災害対策本部会議 16時



25

DHEAT連絡会議 19時～



23

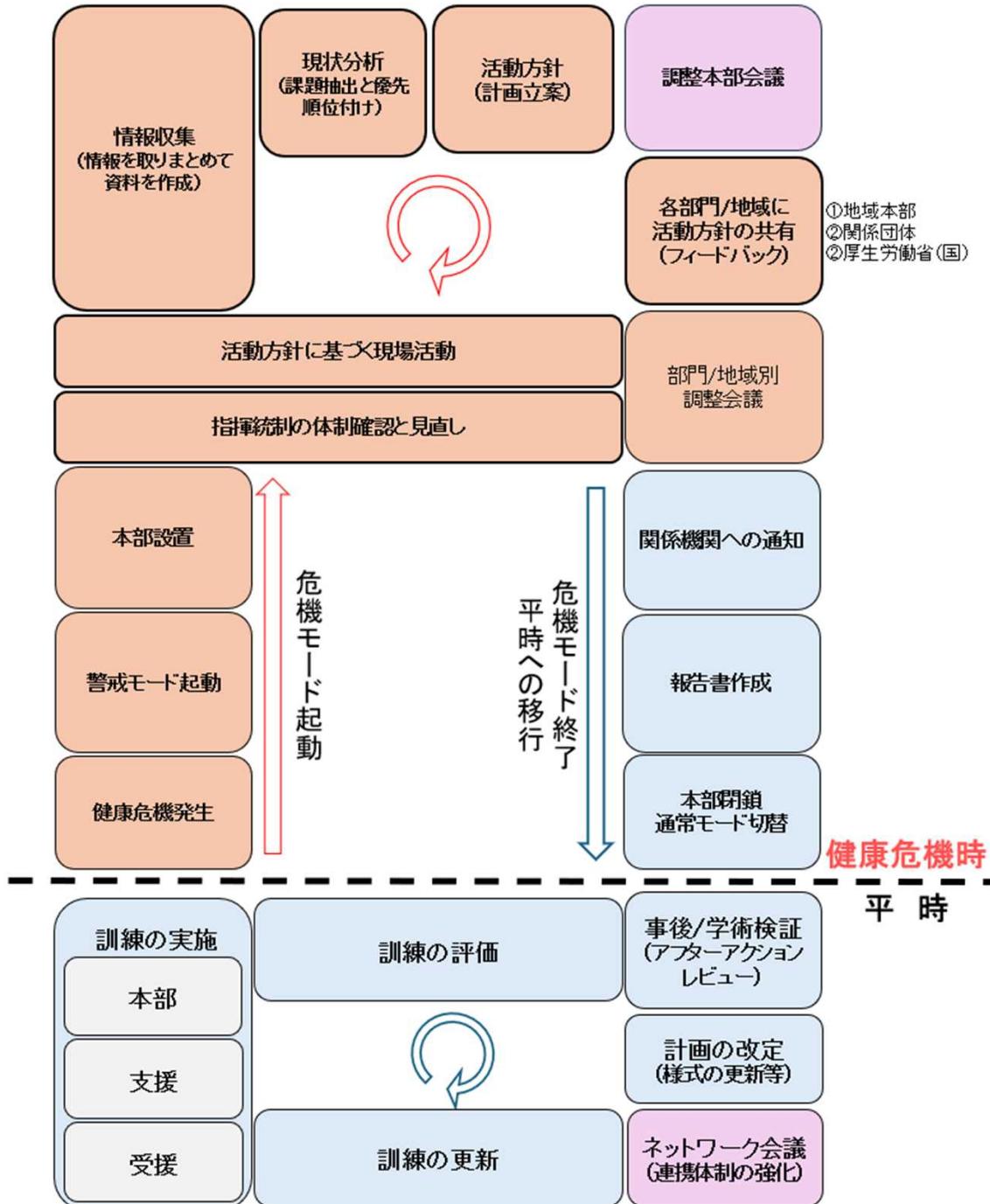
保健医療福祉調整会議 翌12時



24

地域とも連動した本部間情報サイクルの構築は本部運営の中心的技術

【SOP】2つの計画サイクル (Dual Planning Cycle)



- 危機時は「活動」→「情報収集」→「現状分析」→「活動方針」→調整本部会議での「方針周知と調整」→現場への「フィードバック」→「活動体制の見直し」という計画サイクルにより危機対応が推進される。

- 同計画サイクルは、平時の取り組みとも連動している。
- 課題: 危機時の要となる調整本部会議に相当する仕組みが平時には存在しない
⇒ネットワーク会議を開催して平時から連携体制を強化

厚生労働行政推進調査事業費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「健康危機管理センターと他分野連携体制の推進のための研究」(課題番号:22LA2004)

- 我が国に適合するHEOC
 - ハザード管理からリソース管理への転換
 - ネットワーク会議(国・自治体が開催)
 - ① 顔の見える関係
 - ② 共通言語
 - 共通言語として
 - ① 体制図の書き方(“6つの島”)
 - ② 本部のレイアウト
 - ③ オペレーション・テンポ
 - ④ 会議アジェンダ設定



- 健康危機を引き起こすハザードは多様だが、地域の対応リソース支援者は変わらない
 - “対応の基本概念”Concept of Operation (ConOps/コノップス) の関係者共有が重要
 - コノップスの共有による指揮統制強化・オールひろしま健康危機対応

ネットワークの充実強化のために

1. 「顔の見える関係」

- ・定期的に会議等を開催する
- ・困った時に相談できるような仕組み

2. 「共通言語」

- ・本部活動に必要な知識を理解・共有する

